

令和6年度
森林・山村多面的機能発揮対策交付金
活動事例集



林野庁

目次

掲載団体一覧	2
掲載団体活動所在地	3
活動事例	4
1 『移住者と地元森林所有者が協働で取り組む広葉樹林の利活用』 となりの杜（岩手県釜石市・宮古市）	4
2 『多様な主体の参画による林福連携の里山管理』 おむすびeco隊（群馬県みどり市）	6
3 『地域外の人材を呼び込む「普段使いの身近な里山」』 小野路里山活用プロジェクト実行委員会（東京都町田市）	8
4 『山と子どもの関わりを保ち、森林の多面的機能を保つ』 妙高里山保全クラブ（新潟県妙高市）	10
5 『建設会社が取り組む、里山林整備への挑戦』 澤田鉄筋(株)奥野の会（静岡県伊東市）	12
6 『森林の恵みを生かして「御神木の里」を後世に手渡す』 付知町優良材生産研究会（岐阜県中津川市）	14
7 『産・官・学と連携した放置竹林の資源化の取組』 NPO法人桑竹会（三重県桑名市）	16
8 『小規模森林の間伐推進』 きほく自伐林業倶楽部（三重県紀北町）	18
9 『間伐竹材は需要の大きな竹炭パウダーとなって国内外へ』 阿南竹にやさしい研究会（徳島県阿南市）	20
10 『炭焼き文化の継承とヤマネコの生息を支える薪炭林整備』 内山地区炭焼き三氏郎（長崎県対馬市）	22
11 『「かぐや姫(竹筒の花)」で広がる「優しい心」、被災地支援も』 戸島山竹林を守る会（熊本県熊本市）	24
12 『若手シイタケ生産者による荒廃クヌギ林の再生』 菊池村上会（熊本県菊池市）	26
13 『希少植物の生育地再生にも貢献する竹林整備』 那珂里山竹林整備隊（宮崎県宮崎市）	28

掲載団体一覧

No.	活動組織名(活動地域)	活動タイプ					活動の工夫点				
		里山林保全	竹林整備	森林資源	関係人口	機能強化	地域活性	主体連携	情報発信	関係交流人口	生物多様性
1	となりの杜 (岩手県釜石市・宮古市)	●		●			●	●	●	●	
2	おむすびeco隊 (群馬県みどり市)			●			●	●		●	
3	小野路里山活用プロジェクト実行委員会 (東京都町田市)		●				●	●	●	●	
4	妙高里山保全クラブ (新潟県妙高市)	●					●		●	●	●
5	澤田鉄筋(株)奥野の会 (静岡県伊東市)	●		●		●					
6	付知町優良材生産研究会 (岐阜県中津川市)	●			●		●	●	●	●	
7	NPO 法人桑竹会 (三重県桑名市)		●				●	●	●	●	
8	きほく自伐林業倶楽部 (三重県紀北町)	●					●	●			
9	阿南竹にやさしい研究会 (徳島県阿南市)		●				●				
10	内山地区炭焼き三氏郎 (長崎県対馬市)	●				●	●	●			●
11	戸島山竹林を守る会 (熊本県熊本市)		●				●	●		●	
12	菊池村上会 (熊本県菊池市)			●			●				●
13	那珂里山竹林整備隊 (宮崎県宮崎市)		●	●			●		●	●	●

掲載団体活動所在地



活動事例

移住者と地元森林所有者が協働で取り組む 広葉樹林の利活用

となりの^{もり}杜

設立年：令和元年 構成員：5名
活動地域：岩手県釜石市・宮古市
活動実績(令和5年度)：里山林保全(4.2ha)
資源利用(3.1ha)、交付金840千円
Email: morimusubi0401@gmail.com



活動の概要

岩手県釜石市甲子(かつし)地区は、不在村森林所有者の増加等により里山林の荒廃が進んでおり、活用できずにいる森林資源が多くあります。そこで、東日本大震災後のボランティア活動等をきっかけに移住した4名と森林所有者1名の計5名は、こうした状況に貢献すべく、令和元年に「となりの杜」を結成。林業関連団体での勤務経験があり、森林施業プランナー・森林インストラクターである代表をはじめ、地元の森林所有者や森の活用に関心のある移住者が集い、釜石市と宮古市の里山7.3

haで下刈り、枯損木除去、除伐等の里山管理に取り組んでいます。そこでは、薪や木材の生産等、未利用森林資源の伐採・搬出・加工のほか、森林空間を活用し、企業の研修受け入れや、親子向けの森遊びイベントなどを行っています。



森林整備作業前(左)と作業後(右)

移住者と地元の森林所有者が協働で森林整備・活用を推進



研修受け入れの様子

地元の森林所有者とともに、山林の整備と持続的な活用、そして地域全体の活性化に取り組んでいます。間伐や除伐、遊歩道整備や危険木伐採などを通じて、地域の人々が安心して森を楽しめる環境づくりを進めています。

森や森林資源を多様に利活用

広葉樹林では、林内の樹木の種類や状態を調査した上で必要な除伐を行っています。伐採した広葉樹は、材の種類や状態に合わせて、皿やカッティングボード、コースター等の木工品に加工しています。製品は、SNSや地元のイベントでも販売し、一定の収益を得ることに成功しています。



活動の成果・効果(アウトプット・アウトカム)

➤ 森林資源の収益化

生産した薪は毎年20kg×10箱程度を出荷し、近隣のキャンプ場などで販売しているほか、釜石市のふるさと納税の返礼品にもなっており、年間2万～3万円程度を売り上げています。また、前述の木工品は、年間10万～20万円程度を売り上げています。

➤ 他地区の森林所有者からの依頼や釜石市との連携機会の増加

森林整備の実績について知った他の森林所有者から、自分の山も整備してほしいという打診が来るようになりました。また、釜石市との連携で森林体験のイベントなどを行う機会も増えてきました。



森林整備作業の様子

活動上の課題、その対応策等

- コナラを中心に広葉樹のナラ枯れ被害が深刻です。直径20cmに満たない程度のミズナラにも被害が見られるようになっていきます。高木はロープやチルホールを使って順次伐倒し、低木の被害木についても適宜刈り倒すなどして対応しています。
- 付近に生息するシカが林内に入り下草を残らず食べてしまうことがあります。林内の植物をテーマとした観察会などを開催したいと考えていますが、今のところ有効なシカ対策がなく対応が難しい状況です。

今後の展開

- 4年目以降も継続して活動し、風倒木の確認や必要に応じた下刈り・除伐等、伐採後に株立ちしているものについては間引きをして太い木に成長させて、生物多様性が豊かな森にしていきたいと思えます。
- 管理の行き届かない森林の整備を促進するため、市と連携して、地域住民に対する継続的な活動参加の働きかけを行うことで賛同者を増やし、これまでのノウハウを生かして活動地を広げていきたいと考えています。

他の活動組織への一言アドバイス

人工林の整備はある程度共通していますが、広葉樹林の整備は多種多様です。そのため、まず森林の現状を詳細に把握することが重要で、それには専門的な知識が求められます。必要に応じてアドバイザー制度を活用しそれぞれの森林に合った適切な整備計画を立てることが、より効果的な森林づくりにつながります。

本交付金を利用してよかった！

本交付金により、現役世代などにも森林整備への参画やイベントの運営などへの声掛けがしやすくなり、大変助かっています。また、交付金活動を通じて釜石市との連携体制が構築され、活動の展開の大きな原動力となりました。



森林空間を活用した森のイベントの様子等



多様な主体の参画による林福連携の里山管理

エコたい おむすびeco隊

設立年：令和4年 構成員：5名
活動地域：群馬県みどり市
活動実績(令和5年度)：森林資源利用(2.1ha)
 交付金242千円
連絡先：0277-76-2335
Email: chihaya@asc.ne.jp



活動の概要

群馬県みどり市で障がい者支援等に取り組む社会福祉法人チハヤ会(以下、チハヤ会)は、障がい者の創作活動の一環として、木を素材とした木アートや木にふれる機会を増やす活動をしていました。木材等を確保するため地元森林組合や市役所と連携していく中で、みどり市郊外の天神山の里山林で活動できるようになり、令和4年にチハヤ会のスタッフや施設利用者、地元林業家等による活動組織「おむすびeco隊」を結成。林福連携による里山林の整備と資源活用を通じて、散策路や遊び場などの環境を整え、地域住民の憩いの場として整備する取組を行っています。



林福連携による活動

おむすびeco隊の活動をチハヤ会の運営する障がい者支援施設の活動プログラムのひとつに位置付け、施設利用者には枯れ葉集めや薪づくりに主体的に取り組んでもらっています。



「おむすび堂」や災害時用の一斗缶薪ストーブに活用

搬出した木材を加工した薪は、チハヤ会が運営する「おむすび堂」の薪ボイラーや薪ストーブで活用し、地域内外の子どもたちの交流や体験の場、居場所づくりに役立

っているほか、災害時に地域の人々に使っていただけるよう、薪を活用した一斗缶薪ストーブの開発も進めています。

令和5年度までの2年間に、延べ約250名、計20回の活動を行い、対象エリア2.1haで雑草やササの刈払い、落ち葉かき、除間伐等の森林整備を実施しました。搬出した木材は薪に加工し販売、さらにチハヤ会が運営する「おむすび堂」(子ども食堂等)の薪ボイラーや薪ストーブ、災害時用の一斗缶薪ストーブの燃料としてこれまで約7m³を活用しました。



おむすび堂外観(左)と内部



薪ボイラー(上)と薪ストーブ(右)



一斗缶薪ストーブ用の加工前の一斗缶と薪(右)

活動の成果・効果(アウトプット・アウトカム)

➤ 多様な人々による地域課題解決の場づくり

里山林の整備作業には、チハヤ会のスタッフや地元林業家に加え、障がい者支援施設の利用者、「おむすび堂」を利用する子どもたちなど、過去2年間で約250名が参加しました。これとは別に、年1回行う里山整備ボランティア活動では、地域の中学生から行政関係者まで27名が参加しました。障がいのある人や子どもたちも含め、多様な人々が参画する機会を創出することで、里山林の整備をはじめとした地域課題解決の場づくりにつながっています。

➤ 地域における新たな森林整備の担い手の増加

伐採や搬出に関わるスタッフ等には、みどり市主催の技術講習会「自伐型林業推進技術講習会」に参加してもらっています。この結果、チェーンソーの使い方、材の運搬や道づくりなどの安全な森林整備に役立つ知識や技能が大幅に向上し、地域における新たな森林整備の担い手が増加しました。



里山整備ボランティア集合写真



里山整備作業前



作業後

活動上の課題、その対応策等

- 「林福連携」の取組を通じて、障がいがあっても地域課題の解決に貢献できる喜びを実感してもらうことを大切にしています。地域に目を向け自分の街について考えるため、新たなチーム「チハヤソーシャルセクター・CSS」を編成し関心を深めています。
- 障がいのある人を含めた多様な人々との活動や交流の場では、普段なじみのない方が困惑することもあります。障がいへの理解を深め、丁寧に関わっていただくことを目的に、座談会などを継続的に開催していきます。



加工した薪



今後の展開

- 令和8年度にみどり市笠懸町に移転新築される温泉施設へ燃料用のまきを搬入する予定です。また、市販品やオリジナル商品の開発にも取り組んでいきます。
- 林福連携が本取組の特徴でもあることから、他の福祉系団体との連携を充実させ、「おむすび堂」の取組を、森林整備を通じて支えることで地域の活性化を図るとともに、活動参加者の森林整備のスキルアップの機会をつくっていきます。

他の活動組織への一言アドバイス

森林整備活動を通じて、多様な人々が一緒になって社会課題・地域課題の解決につなげていけるような場をつくるのが大切です。森林整備活動は、社会福祉の課題への理解を深め、誰もが暮らしやすい社会構築の機会ともなります。森林や木材には、多様な人々を結ぶ大きな力があると思います。

本交付金を利用してよかった！

アドバイザー制度を活用することで、それまではよく知らなかった森林整備について、課題解決のための助言等を得ることができ、非常に助かっています。

地域外の人材を呼び込む「普段使いの身近な里山」

おのじきとやまかつよう じっこう いんかい
小野路里山活用プロジェクト実行委員会

設立年：令和2年 構成員：11名
活動地域：東京都町田市
活動実績(令和5年度)：竹林整備(0.7ha)
交付金312千円
Email: onojibambooclub01@gmail.com



活動の概要

小野路里山活用プロジェクト実行委員会は、里山環境保全に興味がある小野路好きの仲間と小野路町住民が令和2年に設立しました。生活様式の変化や少子高齢化などにより竹資源の活用が減り、荒廃した里山が広がるこの地域で、「普段使いの身近な里山」をテーマに小野路の美しい里山の原風景を再生するとともに、イベント等を通じた地域の活性化や持続可能な里山づくりを目指して活動しています。

構成員11名のうち7名は、小野路地域の里山環境が気に入り活動に参加している地域外の人材です。このほか、当該地区での活動に継続的に興味関心を持った人たちが構成される地域内外総勢100名以上

がサポートメンバーとして活動を支えています。令和4年度より、長年にわたり手入れされずモウソウチクが侵入した里山林の景観改善に取り組んでいます。また、本交付金とは別に竹灯籠・竹籠・篠笛づくり、タケノコ掘り、メンマ作りなど、竹林や竹をテーマとしたさまざまな体験の場(月2回程度)も提供しています。



タケノコ掘り



ボランティア活動継続を意識した体制づくり

ボランティア活動を意識して組織運営を行っています。活動の継続を優先し、メンバーの負担が過度にならないよう、NPO等の法人化はしていません。核となるメンバー5名が共同代表となり、柔軟性のある組織体制の維持に留意しています。

竹林整備と地元医療施設との連携

活動対象地には、「一般財団法人ひふみ会(まちだ丘の上病院)」が運営する複合施設「ヨリドコ小野路宿」が隣接しています。ここのコミュニティスペースを活動拠点に同法人と連携し、竹林整備体験と伐採竹を使った竹灯籠づくりなど、自然の中での活動で心と体の健康維持を図るイベントを行っています。



メンマづくり(左斜上)
竹灯籠づくり(上)
ヨリドコ外観(左)



流しそうめん台づくり(上)

活動の成果・効果(アウトプット・アウトカム)

➤ イベントから竹林整備へ

竹をテーマ・素材としたさまざまなイベントを企画・主催し、それらを通じて竹や竹林のことを参加者に伝えています。令和5年度には542名、これまでに延べ1000名以上が参加しました。

取組に共感した参加者100名以上がサポートメンバーとして運営支援をしてくれるなど、人々の輪が広がっています。



竹林整備前(左)、整備後(上)

➤ 地元農家への竹チップ提供

令和3年度に、町田市と「里山を活用した地域づくり協働事業に関する協定書」を締結したこともあり、町田市からチップパーを無償借用できたので、伐採竹をチップ化して土壌改良材等としてお分けしています。近隣農家等からの依頼で、令和4年度以降の2年間で軽トラック約10台分(計約3t)を提供しました。



搬出した枯れ竹、チップパーと竹チップ

活動上の課題、その対応策等

- 小野路地区での活動を町田市全域に広げていきたいと考えています。ここでの取組をモデルに里山整備活動の横展開が進むよう、町田市里山環境活用保全計画のリーディングプロジェクト「竹林の再生と活用」の推進など、町田市等との連携を通じて活動の拡大に努めます。

今後の展開

- 末長く竹林での保安全管理活動を継続していくため、活動の実績や成果をホームページ、SNS等で発信し、広く地域外の人々にも活動への参加を促し、新たな人材の育成・確保につなげていきます。
- 首都圏近郊での活動ということもあり、林産物の加工・販売より体験機会の提供に力点をおいて関連イベントなどを実施し、その参加費などにより活動を継続していくための資金確保につなげます。

他の活動組織への一言アドバイス

使命感だけで活動を長年継続していくのは難しい面があります。活動に新たな人材を呼び込むためには、「竹林整備」と「竹で楽しむ」活動の共通点を見出し、それを基に楽しむ機会を提供することが大切です。

本交付金を利用してよかった！

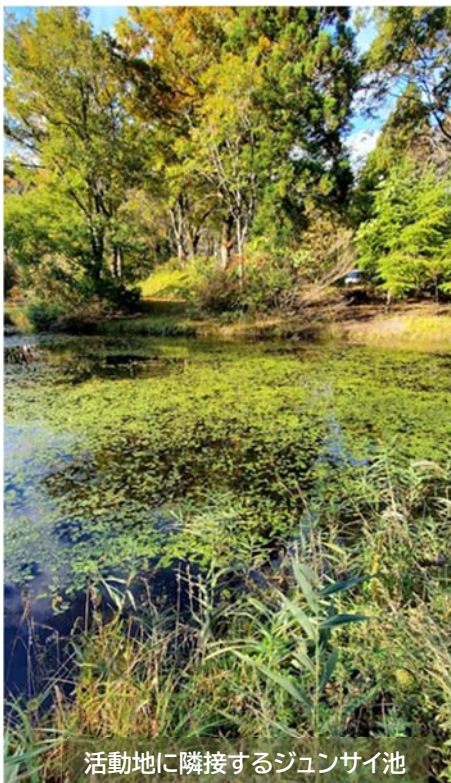
放置竹林を面的に整備したいものの、具体的な進め方がわかりませんでした。本交付金を活用して地域協議会の指導や助言を得ながら進めることで、現場の状況に則した計画づくりや整備作業を行うことができました。

山と子どもの関わりを保ち、森林の多面的機能を保つ

みょうこうさとやま ほ ぜん

妙高里山保全クラブ

設立年：平成16年 構成員：26名
活動地域：新潟県妙高市
活動実績(令和5年度)：里山林保全(3.0ha)
交付金297千円
連絡先：0255-72-3658
Email: nigo007@joetsu.ne.jp



活動地に隣接するジュンサイ池

活動の概要

新潟県妙高市は、妙高山から高田平野へと緩やかに広がる山すそに位置しています。その中程の標高527mの高床山(たかとこやま)の山腹には、35haの広大な「高床山森林公園」が広がっています。少し離れた「小丸山(こまるやま)新田丘陵」は、妙高山の土石流によって形成された丘陵で市街地に隣接しています。どちらも落葉広葉樹を中心とした森林で、古くから里山林として食糧や資材、燃料等の供給場所として人々の生活と深く関わってきました。近年は里山林としての利用が減り、管理が行き届かず荒廃が目立つようになりました。

こうした状況を受け、妙高里山保全クラブは、人が山に関わり続けることで里山の荒廃を防ぎ、森林のもつ多面的な機能を保つことを目的に、平成16年に設立されました。構成員は現役の市役所職員、教員、主婦のほか、企業や公務員の退職者など26名で、全員が地域在住者です。高床山森林公園と小丸山新田丘陵を対象とした本交付金の活動では、希少植物が生育できる多様性に富んだ森、市民が安心して入れる森を目指し、里山林の間伐、小低木・下草の刈払いなどを行っています。交付金で整備した森林は、自然体験活動の場として活用され、里山と子どもたちとの関係づくりに結び付いています。

貴重な希少植物が生育する豊かな森の再生

小丸山新田丘陵に貴重な植物が生育する里山環境を再生するため、除間伐やツル性植物の除去、植栽などの保全活動に力を入れています。植物に詳しい会員が中心となり、希少植物の誤刈を防ぐ対策などを行っています。

森林での自然体験の場の創出・活動支援

整備した林内で、学校や保育所向けの自然体験プログラムを実施しています。小丸山新田丘陵は、市内の保育所が通年活用しているほか、高床山森林公園は、近隣の小学校の総合的学習の場となっています。



保育所向け自然体験プログラムの一環で行われた巣箱の設置(上)と森のブランコづくり(左)

活動の成果・効果(アウトプット・アウトカム)

➤ 里山再生で緑化推進運動功労者に

継続的な森林整備と保全活動により林床環境が改善し、ササユリ、アケボノシュスラン、キンラン、ギンラン、ウラジロヨウラク、カタクリなどの希少植物が確認できるようになりました。長年の里山保全活動が評価され、令和6年4月に「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受けました。

➤ 子どもたちに森の大切さを伝えています

総合的学習「森の学習」の講師として、市内の小学校で森の大切さを伝えています。令和5年度には、高床山森林公園で小学生らと70本のコナラを植樹しました。また市内5か所の保育所が、「森の活動」の場として小丸山新田丘陵を継続的に活用しており、年12回程度、延べ400～500名の園児が訪れています。



ピンク色のリボンは貴重植物保護用のマーキング。右は再生したササユリ



小学生とのコナラの植樹活動

活動上の課題、その対応策等

- 公的支援終了後の活動継続が課題です。整備活動の意義をメンバー間で繰り返し確認し合うとともに、間伐材等の有効活用を図るなどで意識を高め合っていきます。
- 作業には毎回15名程の参加がありますが、新たな会員の獲得も重要です。関心のありそうな人への積極的な声かけの傍ら、市報や広報誌等への掲載を通じて毎年数名の入会者を確保しています。

今後の展開

- 令和7年度より小丸山新田丘陵の末整備林の整備に着手します。コナラを主とした雑木林での枯損木・風倒木の除伐などを行うことで、林床の光環境及び景観の改善を進めていきます。
- 既存の整備地における環境維持活動を継続していきます。市内の保育所の活動の場である小丸山新田丘陵では、安全な環境の維持に重点を置き、刈払いを行っていきます。



枯損木の伐採作業



森林整備後の様子(小丸山新田丘陵)

他の活動組織への一言アドバイス

昨今は親世代も森林体験が少ないことから、子どもたちの森林体験を通じて、親世代にも関心をもってもらおうという観点にも留意して活動しています。人々の関心を集めるために幅広い世代が魅力を感じる森をテーマとしたプログラムづくりが大切です。

本交付金を利用してよかった！

本交付金で整備できた里山林を活用し、地域の保育所・幼稚園や小学校向けの自然体験活動をより充実することができました。また、ボランティアの方々との継続的なつながりも構築でき、新たな森づくりの仲間を増やすのに大変役立っています。

建設会社が取り組む、里山林整備への挑戦

さわだてっきん おくの かい
澤田鉄筋(株)奥野の会

設立年: 令和元年 構成員: 12名
活動地域: 静岡県伊東市
活動実績(令和5年度): 里山林保全(0.5ha)
資源利用(9.4ha)、交付金1,855千円
連絡先: 0466-82-0107
Email: sawadatextukin@yahoo.co.jp



活動の概要

「澤田鉄筋(株)奥野の会」は、静岡県伊東市西部に位置する「奥野(おくの)・荻(おぎ)地区」で森林整備の活動を行っており、10～60代の従業員とその家族の全12名で構成されています。森林整備に関心があり、平成30年に65haの森林を購入し、独自に整備を行ってきました。「奥野・荻地区」の森林は、5割以上がヒノキを主とした針葉樹、約3割が広葉樹、残り約2割がクロマツ林で、長期にわたり放置されていたため、下層植生が発達しない荒れた状態でした。

令和元年に3つの台風が伊豆半島を立て続けに襲い、対象森林がある山林も倒木・崩壊土砂災害に見舞われました。災害の爪痕が今なお残る中、放置されてい

た森林を整備し、森林の持つ多面的な機能を高めることは、下流部に位置する伊東市市街地の豪雨災害を軽減する上でも急務であることから、「澤田鉄筋(株)奥野の会」は令和4年から本交付金を活用し所有林において、森林の整備を行っています。令和5年度までに作業道約4kmを開設し、約25haの森林の整備を行ってきました。



活動地の急峻な斜面

異業種(鉄筋工事請負業)から森林整備への挑戦

建設業者であるため重機の扱いは手馴れていましたが、森林整備は未経験でした。まず社長が率先して森林施業の技術を学び、令和4年度から本交付金を使って作業道の作設や間伐、薪づくりなどに取り組んでいます。

アドバイザーの有効活用

重機の扱いやリスク管理は建

設業での技能や経験を活かすことができましたが、森林整備に係る部分については手探りや独学の部分があったので、アドバイザー制度を有効に活用し、伐採木選定や作業道の設計、土砂の活用等について現地で指導を受けることで、森林施業の技術向上を図っています。



薪を束ねるために独自開発したリング状の器具



作業道隣接地の伐採木の搬出

活動の成果・効果(アウトプット・アウトカム)

➤ 間伐材の共販所での販売

搬出したヒノキの間伐材は、県森林組合連合会の共販所で販売するとともに未利用材は自社でチップ加工し、近隣の複数の無人販売所で販売しています。現在は、作業道の延伸や除間伐にかかる時間が多く、令和5年度に

持ち込み販売した間伐材はヒノキ直材で100m³程度ですが、今後これをさらに増やしていく予定です。

➤ 効率的な森林整備を目指した作業道整備

交付金を活用して作業道の作設に力を入れたことで、令和4年に1,300m、令和5年に895mの作業道を整備できました。作業道が延長されたことで、材の搬出や森林整備がより効率的に行えるようになりました。



伐採木の一部は作業道整備の土留めに活用



作業道作設の様子

活動上の課題、その対応策等

- 林道、作業道から離れた場所の伐採木の搬出が課題となっています。架線の使用が効果的とのアドバイスに従い、架線集材の技術を習得し、架線搬出にも取り組む予定です。
- 大雨などにより発生した土砂や倒木で使えなくなった作業道の修復が課題となっています。現在、山の上に向けて作業道の整備を進めるために配置しているバックホウを、山の下の方の修復のためにその都度降ろす手間を省くにはどうしたらよいか検討中です。

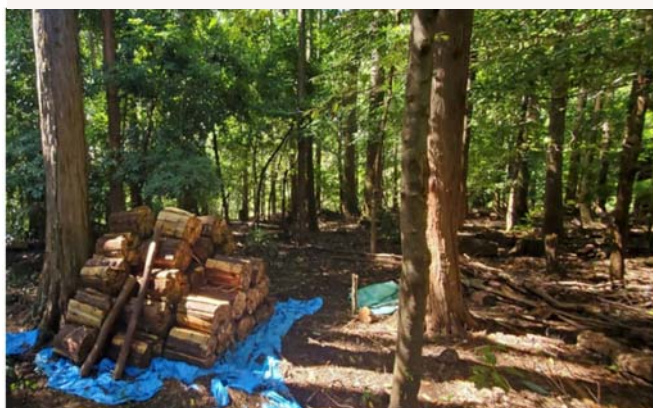
今後の展開

- 所有する森林については、当社の事業の柱となるように育てていきたいです。将来的には当該森林を対象に森林経営計画を策定するなどして林業を本格的に行っていきたいと考えています。
- 将来的に自治体からの森林整備の委託を受けられる林業事業者になることを目指し、メンバーの十分な森林整備の技術・経験の蓄積に励んでいます。



他の活動組織への一言アドバイス

65haの山を購入することは思い切った投資でしたが、これにより森林整備に対する本気度が行政等各所に伝わり、本交付金の活用にもつながりました。専門的な知識・技能が必要なときは、積極的にアドバイザーを活用することをお勧めします。



本交付金を 利用してよかった！

異業種からの参入ですが、建設業で習得した機械操作の技術や経験、安全管理の心得や方法などは、森林管理を進めていく上で大変役立っています。新たな業種に参入することで、会社および従業員のリスクリングにもつながっています。



生産された薪、チップ等(上)と、散策路沿いにある無人のウッドチップ販売所

森林の恵みを生かして「御神木の里」を後世に手渡す

つけち ちょうゆうりょうざいせいさんけんきゅうかい
付知町優良材生産研究会

設立年：昭和38年 構成員：42名
活動地域：岐阜県中津川市
活動実績(令和5年度)：里山林保全(1.0ha)
関係人口創出維持タイプ、交付金165千円
連絡先：0573-83-0018
Email: 28miura@blk.mmtr.or.jp



活動の概要

中津川市付知町(なかつがわしつけちちょう)は、伊勢神宮の式年遷宮の用材を伐り出す「御神木の里」です。付知町優良材生産研究会は、この町で60年以上にわたり森林に関する活動に取り組む団体で、林業従事者、森林組合職員のほか、建築・製材業者、農家等、30～80代の幅広い年代層で構成されています。



付知町は森林率の高さから「木の町」として知られながらも、子どもたちの森林や木材に触れる機会が減っているのが実情です。こうしたことから「森林(もり)を護り・子どもを育て・地域を創る」ために、地域の財産である森林に目を向けてもらう機会の提供に力を入れています。令和4年度からは交付金を活用し、高齢化で森林所有者自らが管理することが困難なヒノキ、マツが混在する広葉樹林等1.0haについて、所有者と協定を結んで下刈り、植栽、除間伐等を行っています。

材料提供を通じた伝統工芸品の存続支援

木曽ヒノキを使った伝統工芸品である曲物(まげもの)のひとつに「曲げわっぱ」があります。曲げわっぱの側面の合わせ目をつなぐ伝統技術「桜皮縫い」にはヤマザクラの皮を材料とする「かんば(樺皮)」が必要となります。皮の採取・販売業者が減り入手困難になる中、地元の工房に、森林整備で採取したかんばを提供することで、伝統工芸品の生産の存続を支援しています。また、地域内外の人々を対象にかんばの採取技術を学ぶイベントを開催し、「御神木の里」での森林づくりへの理解醸成を図っています。



整備後の森林空間を利用した財源確保

活動森林内の環境を利用した自主財源づくりの一環で、森林整備で発生したナラ類の伐採木を活用したキノコ栽培や、地域で受け継がれてきた郷土食の混ぜご飯や朴葉寿司の材料となる蜂の子を得るための「はい

蜂(クロスズメバチ)」の飼育を行っています。キノコはシイタケ、マイタケ、ナメコ、ヒラタケ、ヤマブシダケ、ウリタケなどを栽培しています。



シイタケの原木栽培(本伏せ)の様子(上)と大きく育ったマイタケ(右)



活動の成果・効果(アウトプット・アウトカム)

➤ 関係人口の創出維持に貢献

本交付金の関係人口創出の取組の一環として、森林づくりなどに関心がある地域内外の人々向けのきこり体験ツアーを令和5年度に1回開催し、全体で20名の参加がありました。遠くは東京都や愛知県などからも来ていただき、「御神木の里」での森林づくり活動への関心を高めることができました。



間伐作業体験



炭焼き体験



薪割り体験

➤ 鳥獣被害の減少

活動対象地は住宅や農地が隣接していますが、人の行き来が少なく、野生鳥獣の隠れ家として地域の鳥獣被害の原因のひとつとなっていました。本交付金の定期的な活動で頻繁な人の出入りがあり、森林整備が進んだことで鳥獣被害が半減しました。

活動上の課題、その対応策等

- 過去に、活動に必要な資金が不足し活動継続が危ぶまれたことがあったことから、自主財源の確保が大変重要だと考えています。はい蜂の飼育・販売、キノコの原木栽培などのほか、地域資源を活かした新商品の開発などを進めていきます。



はい蜂飼育用の巣箱

今後の展開

- 交付金活動終了後も、子どもから高齢者まで幅広い年代の地域内外の住民が森林での活動や体験ができるよう様々な機会を継続的に提供していきます。
- 自主事業による財源確保のために、「つけち森林の市」にて、蜂の子やキノコなどの販売や、体験型ツアーイベントの企画・運営などを進めていきます。



整備前の林内



整備作業の様子



整備後の林内

他の活動組織への一言アドバイス

森林資源の活用は、直接的な利用だけでも多岐にわたります。それぞれの活動地域の資源特性に合わせた活用方法を模索し、活動主体自体が楽しめる要素を取り入れることが大切だと思います。そうした活動と体験活動を組み合わせることで、継続的な取組へと発展させることができると考えます。

本交付金を利用してよかった！

「御神木の里」の森林を後世に引き継いでいくため、森林資源を利活用しながら森林整備を持続的に進めることが必要となります。本交付金の活用が後押しとなって、将来の森林資源活用も見据えた継続的な森林整備の計画を考えることが可能となりました。

産・官・学と連携した放置竹林の資源化の取組

そうちくかい
NPO法人桑竹会

設立年：平成21年 構成員：56名
活動地域：三重県桑名市
活動実績(令和5年度)：竹林整備(0.2ha)
交付金167千円
連絡先：090-7030-3657
Email: s_sakagura@sb4.so-net.ne.jp



活動の概要

三重県桑名市(くわなし)は古くからタケノコの産地として知られ、美しい竹林と里山の風景が広がっています。しかし、現在、市の総面積の約5%(約660ha)を占める竹林のうち、管理されているのは1割程度で、放置竹林の面積が拡大しています。NPO法人桑竹会は、この放置竹林の拡大を抑制するために平成21年に設立されました。社会貢献に意欲的な高齢者、活動に共感する竹林所有者や若者等、10～80代のボランティア56名で構成されています。

市内には自力での整備が困難な竹林所有者が多く、そうした所有者からの整備依頼はこれまで60回程度に及んでいます。令和5年度からは、タケノコの産出ができる竹林を目標に4,000本/haを目指して、竹の間引き、枯れ竹の処理、搬出、チップ化などの活動を週2回の頻度で行っています。このほか、企業や自治体、学校などの多様な主体との連携・交流にも積極的に取り組んでいます。



「桑名竹取物語事業化協議会」の立ち上げ

放置竹林の問題をともに考えていく場として、桑名市や企業・大学など共同で、「桑名竹取物語事業化協議会」を令和3年に立ち上げ、竹林整備をはじめ、市内の公共施設での竹集成材の利用、イベントの実施など、連携事業等の具体化を進めています。



竹の集成材を使った公共施設用の家具(桑名福祉ビレッジセンター)とサンプル板(下)



地域内外をつなぐ多様な主体との連携・交流

放置竹林と地域内外をつなぐ活動として、桑名市と連携し、市内の小学校での伐採竹を使った竹工作教室や竹林をテーマとしたSDGs教育などを行っています。桑名工業高校との連携では、令和2年より竹林整備の実技指導の授業を年25回行っています。また、他地域の異業種との交流も図っています。岡山県倉敷市で竹の集成材を使った家具作りを行う「株式会社テオリ」に、令和3年から伐採竹を3t×12回分を搬入しました。



上から竹林整備前と作業後の様子



桑名工業高校対象の竹林整備指導



伐採竹を使った加工の実地研究

活動の成果・効果(アウトプット・アウトカム)

➤ タケノコと竹を加工・販売して収益化

本交付金の活動も含めた放置竹林の整備活動を通じて得た竹やタケノコを加工・販売して収益化しています。タケノコは農協等に年間3t程度出荷し、約80万円を売り上げています。また、竹はポーラス竹炭に加工し、30万円程度(1000円×300箱)を売り上げています。

➤ イベントを通じた竹林整備の重要性の周知

毎年10月、地元の学校関係者や地域住民に竹林整備について知ってもらうためのイベント「竹の十三夜」を開催しています。参加者約500名が竹灯籠(2,500個)を作り、そのやわらかい光を楽しむとともに、同イベントを通じて地元にとっての竹林整備の重要性を参加者に伝えています。



活動上の課題、 その対応策等

伐採竹の商品化・製品

化の促進が課題です。企業と共同で新たに商品や製品を作る際には、類似する他の商品との差別化や他の商品より安価に製作する道筋を探るなどして付加価値を付けることで、企業側の設備投資をしやすくするよう努めています。

今後の展開

- 「桑名竹取物語事業化協議会」と一体で、竹炭工場、野菜処理工場、集成材工場の誘致を目指す活動など、伐採竹の事業化に向けた協議を進めます。
- 本交付金を活用した竹林整備活動を通じて、放置竹林という地域の深刻な問題を解決するとともに、竹林産物を活用した地域経済の発展と会員の健康増進・仲間づくりにさらに取り組んでいきます。



他の活動組織への一言アドバイス

竹林の整備に係る技能は、実践していくことで向上できます。ただ、竹林整備を継続的に進めていくためには、伐採した竹の活用が欠かせません。様々な知見・技術のある多様な主体との連携は、竹林活用の可能性を考える上で、またそれを具現化する上で有効な手段となります。

本交付金を利用してよかった！

本交付金を活用することで、参画者を増やし活動の輪を広げることができました。また、外部アドバイザーによる安全講習(ロープワーク、伐倒技術、機材のメンテナンス等)を受けることができ、技能向上や安全管理の面で大きな成果を得ることができました。



林内に整備した道(上)と竹の集成材の桑名竹取物語事業サポーター認定証(市長より授与)

小規模森林の間伐推進

きほく自伐林業倶楽部

設立年：平成29年 構成員：3名
活動地域：三重県紀北町
活動実績(令和5年度)：里山林保全(2.8ha)
交付金322千円
連絡先：090-7694-6587
Email: tomonori.ueno@gmail.com



活動の概要

三重県南部の尾鷲(おわせ)林業地に位置する紀北町(きほくちょう)は、町の面積の9割が森林に覆われています。しかし、小規模・零細な所有者が多く、高齢化も進んでいることなどから、森林経営計画の策定には至らず、手入れされずに放置された状態のスギ・ヒノキ林が目立つようになっていきます。

こうした状況を受け、地元の同級生3人が集まり、紀北町内のスギ・ヒノキ人工林の間伐施業を行うため、平成29年に「きほく自伐林業倶楽部」を設立しました。活動対象地は代表が所有する、ヒノキ7割、スギ3割の総面積約20haの森林です。40年近く手入れがされておらず、適切な整備が不可欠な状態となっていました。当

初、森林経営計画にのせられないか検討しましたが、小規模に分散していたことから計画策定は断念し、本交付金を活用して整備することとしました。

施業は、一般的な「3割間伐」では、地形上、風倒木被害を受けやすくなると判断し、「年間1割間伐」を目安に少しずつ行っています。



整備前の林内の様子

森林経営計画の策定が困難な小規模森林の間伐

きほく自伐林業倶楽部は、手入れが必要であるにもかかわらず、森林経営計画を立てることが難しい森林の整備に取り組んでいます。代表は、約40年前に枝打ち体験をした程度で、林業はほぼ未経験でしたが、同じく林業未経験の仲間とともに、本交付金を通して伐倒や安全管理、集材機械の取り扱いなど必要な技術や知識を積極的に習得してきました。

簡易架線による集材

高度な技術、高コストな機材を必要とする本格的な架線集材は採用せず、比較的林道に近い場所では、簡易架線(「マッシュプーリー」使用)及びPCウィンチで集材、搬出しました。



「マッシュプーリー」を使用した簡易架線およびPCウィンチによる集材・搬出作業の様子

活動の成果・効果(アウトプット・アウトカム)

➤ 森林経営計画未策定森林の整備を通じて地元に貢献

三重県における森林経営計画認定面積のカバー率は、13.2%(令和4年時)と低位にあります。本交付金を活用し、手つかずの小規模森林を対象に間伐を順次進める(平成29年度から7年間で延べ31.6ha)ことで、地域の里山整備に貢献しています。今後の森林整備の一つのあり方を提起する取組となり得ます。

➤ 行政との良好な関係の構築

間伐材を尾鷲木材市場に出材できた実績や、創意工夫に満ちた意欲的姿勢が地域の模範的な事例として評価され、平成30年度からは、紀北町から毎年10万円の上乗せ支援が受けられるようになるなど、行政との良好な関係を構築できました。



搬出された間伐材

活動上の課題、その対応策等

- 林道と隣接しておらず作業道が作れず、また急傾斜地であることから材の搬出に苦労しています。令和元年度は、スギ約6m³、ヒノキ約16m³を搬出し、市場に出すことができました。それ以降は、簡易架線を使っでの搬出が困難な箇所での作業であるため、主に切捨間伐で対応しています。

今後の展開

- 地区全体でみれば、本交付金対象の森林は一部にすぎませんが、可能な範囲で今後も継続して、小規模森林での活動地の拡大に努め、地域の里山整備に貢献していきたいと考えています。
- 過年度に実践した簡易架線による集材は、条件が合えば他の森林での集材でも活かすことができる汎用性の高い技術です。今後もこの経験を活かしながら、適宜、集材作業にも取り組みます。
- 里山管理に関心のあるボランティアの方々を対象に森林施業についての研修等を行い、林業を担う人材の育成や新たな構成員の獲得につなげていきたいと思ひます。

他の活動組織への一言アドバイス

林業経験がほぼない中で自伐林業に取り組むのは覚悟が必要だと思います。また活動時の安全管理の徹底が何より大切です。かかり木の処理等は一定の技能・経験なしでは難しいので、事故なく継続的に活動するには、アドバイザー等、専門家の指導を受けることをお勧めします。

本交付金を利用してよかった！

森林経営計画の策定要件を満たすことができなかったこともあり、本交付金がなければ森林整備自体を断念していたと思います。資機材の購入だけでなく、チェーンソーの取扱・安全講習の受講もでき、本交付金が活動の幅を広げてくれました。

間伐により光が差し込み下草が豊かになった林内

間伐竹材は需要の大きな竹炭パウダーとなって国内外へ

あ なんたけ けんきゅうかい
阿南竹にやさしい研究会

設立年：平成29年 構成員：5名
活動地域：徳島県阿南市
活動実績(令和5年度)：竹林整備(3.2ha)
交付金1,025千円
連絡先：0884-34-2411
Email: kanegen2411@gmail.com



活動の概要

徳島県阿南市は、かつては全国有数のタケノコの産地でした。しかし、1980年代後半、中国からの水煮タケノコの輸入が本格化すると、この地域のタケノコ生産は急速に衰退しました。活動対象地のある阿南市福井町(ふくいちょう)では、タケノコ生産の衰退に伴う竹林の管理意欲の低下に加え、竹林所有者の高齢化も重なり、管理できない竹林の過密化や枯死竹の放置・倒伏が進むとともに、周囲の広葉樹林や耕作地などへの侵入も見られるようになりました。

古くからこの地で竹材・竹製品の加工・販売を手掛ける「(株)是松商店」では、平成29年、阿南市の提案・紹介をきっかけに、近隣住民らとともに「阿南竹にやさしい研究会」を設立。本交付金を活用した地元の竹林での活動を開始しました。タケノコが出なくなった放置竹林の整備、竹林の再生、竹林資源の有効利用を目的に、地域の竹林所有者からの依頼を受けて、枯れ竹の処理、間引き、搬出などを行っています。令和5年度は、本交付金を使って3.2haの竹林を整備しました。竹林



加工所内の炭焼き窯と
加工前の伐採・搬出竹(右)



伐採・搬出した竹は竹炭パウダーに

間伐竹材は、是松商店の工場にて15mm程度の竹炭チップに加工された後、県外の別業者が微粉碎します。それを是松商店が竹炭パウダーにしています。本交付金活動で搬出した竹からの竹炭パウダーの生産量は、年間0.5～0.75t程度になります。

化粧品やスキンケア製品として国内外へ

竹炭パウダーはミネラル成分を多く含み、毛穴や皮脂汚れを吸着する効果も高いため、化粧品やスキンケア製品としての大きな需要があります。本交付金で得た竹材から生産された竹炭パウダーは、大手製薬メーカーの化粧品部門などで製品に加工され、商社を通じて国内外で販売されています。



焼いた竹炭を粉砕機
に入れる様子(左)



粗粉碎した竹



道の駅に並ぶ加工品

活動の成果・効果(アウトプット・アウトカム)

➤ 交付金活動により生産量がUP

(株)是松商店の工場での竹炭の生産量は、全体で年間10～15t程度ですが、需要を賄う水準までには達していませんでした。しかし、本交付金の活動により竹炭の生産量を5%(0.5～0.75t)程度増加することができました。

➤ 交付金活動を通じた地域への貢献

阿南竹にやさしい研究会は、代表以外、竹林整備の経験がほとんどない近隣住民で構成されています。本交付金活動を通じて竹林整備の研修を行うことで地域住民の技能向上につながり、タケノコが産出できる明るく景観のよい竹林が再生されるなど、人材育成と地域の活性化に貢献しています。



整備前の竹林



整備後

活動上の課題、その対応策等

竹炭パウダーの需要が大きいため、継続的な生産に向けた竹材の安定供給が求められています。本活動を竹材の主要な供給源としつつ、外部からの買い取りで補いながら原料となる竹材供給量を確保し、炭窯の稼働率を上げることで炭自体の生産を拡大します。

今後の展開

- 竹炭パウダーの製造を継続して行います。より多くの竹材が確保できるよう、外部からの買い取りも進めながら、本活動による竹材の入手を積極的に図っていきます。
- 近年、造園会社や竹いかだを扱う業者などからの竹材提供の依頼が来るようになったことを受け、こうした要請にも応えられるよう、竹炭製造とのバランスを考えながら竹炭以外の活用方法を模索していきます。



(株)是松商店の竹材・竹製品の加工所の外観と裏山の竹林

他の活動組織への一言アドバイス

放置竹林の景観改善を行っても、3年も経つと元の状態に戻ってしまうことが往々にしてあります。継続的な管理活動のために、「竹林で考えるのではなく、タケノコで考える」というように、竹林管理自体を目的とするのではなく、別の継続可能な目的やスキームをもって活動することが大切です。

本交付金を利用してよかった！

竹林の管理は、高齢の所有者に委ねることは難しく、一方で手をこまねていると拡大するため、時間との競争という面があります。本交付金を通じて、安全講習や技術向上のための研修を受けられることは、新たな人材の育成・確保や迅速な対応につながる重要なポイントです。

炭焼き文化の継承と ヤマネコの生息を支える薪炭林整備

うちやまちくすみや さんしろう
内山地区炭焼き三氏郎

設立年： 令和4年 構成員： 14名
活動地域： 長崎県対馬市
活動実績(令和5年度)： 里山林保全(1.8ha)
交付金1,303千円
連絡先： 090-1188-7216
Email: asaikosaikou@yahoo.co.jp



活動の概要

対馬市厳原町内山地区(つしましいずはらまちうちやまちく)では古くから炭焼きが盛んで、現在も、地区の薪炭林で伐採したカシやコナラを使った木炭づくりが行われています。しかし近年はシカ・イノシシの獣害が深刻化し、地区の薪炭林は、シカの食害によって伐採後のカシやコナラの萌芽更新ができず、はげ山状態になってしまった箇所が増えていました。

一方で、シカが嫌うシロダモなどは増えましたが、これらは木炭の材料としての利用価値は低く、徐々に薪炭林としては質の低い森林へと変わってきている状況です。このままでは炭の材料となるカシやコナラが枯渇し、地域の製炭業も絶えてしまうことが危惧されたため、カシやコナラを守り、製炭業を後世につないでいくために、この地区の熱意のある住民14名で「内山地区炭焼き三氏郎」を結成しました。クヌギ、コナラの萌芽枝や植

栽苗をシカの食害から守るため、約4.2haの薪炭林を対象に、令和4年度に800m、令和5年度には1,400mの防鹿ネットを設置するとともに、下草の刈払いなど、薪炭林の維持管理活動に取り組んでいます。



防鹿ネットの設置準備作業(左)とネット設置後の状況(上)



萌芽更新率 84%を達成

令和4年度にシラカシ・シロダモ・スダジイなど63本の高木を伐倒し、53株から萌芽し萌芽更新率84%を達成しました。翌令和5年度に、樹木の密度が低くなってしまった箇所を中心にクヌギを500本植栽するなど、萌芽更新可能な森づくりを進めています。



活動の成果・効果(アウトプット・アウトカム)

➤ 炭焼き文化の継承とツシマヤマネコの生息環境の保全

活動対象の薪炭林では、絶滅危惧種である、国の天然記念物ツシマヤマネコの生息が確認されています。クヌギ、コナラ、カシなどのドングリはツシマヤマネコが捕食するネズミなどの餌となります。本取組によりドングリの発生が促されるため、ツシマヤマネコの生息に適した環境の保全も図れています。

➤ ニホンミツバチ100%の天然はちみつ

薪炭林は、炭焼きやツシマヤマネコの餌場として以外にも、対馬の主な林産物であるシイタケの原木生産や、ニホンミツバチの蜜源として対馬で古来より盛んな対馬天然和蜂の養蜂も支えています。シカの被害等の被害から薪炭林を保全することは、この島の自然資源を活かした地域づくりにもつながっています。

活動上の課題、その対応策等

- シカ等による獣害への対策は全島規模での課題です。本活動を通じて、住民同士の協力による防鹿ネットの設置などの取組が周辺地域にも広がっていくことで、対馬全体の薪炭林の保全につながることを期待しています。
- 炭焼きは“きつい・汚い・危険”のいわゆる3K仕事で、生産者の確保が課題です。若い人にも内山地区の製炭業に関心を向けてもらうため、令和5年度に対馬高校ユネスコスクール部などと協働で、ドングリから育てた苗木植栽などを行いました。今後、確実に若手人材の育成・確保につなげていくために、広報活動などが必要だと考えています。

今後の展開

- 木が太くなりすぎないうちに伐採する等、安全かつ手入れがしやすい林分づくりに取り組みます。
- 炭焼きに熱意を持っている地元の人々が現役でいる間に、木炭生産のノウハウや製炭業の良さ、炭炬燵などの木炭利用の魅力などを地域外の人々にも伝え、若手人材の確保・育成の一助になればと考えています。また、薪炭林について多くの人に関心をもってもらえるよう、シイタケ原木の供給源やニホンミツバチの蜜源としての薪炭林の魅力を伝える取組みも行っていきます。

他の活動組織への一言アドバイス

炭焼きやシイタケ生産、はちみつ生産などに長けた高齢者と、事務手続きや書類作成に慣れた若い世代が連携して取り組むことで、本交付金の活用を通じた地域課題の解決につながります。

本交付金を利用してよかった！

シカ生息数の増加が薪炭林の萌芽更新の深刻な阻害要因となり、持続的な薪炭生産が危ぶまれる状態でしたが、本交付金のおかげで侵入防止柵の設置ができ、萌芽更新・苗木確保が可能になりました。



薪炭林の中のニホンミツバチの蜂洞



炭焼き窯と炭窯見学(下)



高校生などの植樹活動

「かぐや姫(竹筒の花)」で広がる「優しい心」、被災地支援も

としまやまくりん まも
戸島山竹林を守る会

設立年：平成20年 構成員：20名
活動地域：熊本県熊本市
活動実績(令和5年度)：竹林整備(2.9ha)
交付金701千円
連絡先：080-1795-7092
Email: kznsk.ikd@gmail.com



活動の概要

熊本市東区戸島本町(としまほんまち)地区は、標高132mの戸島山の緑豊かな自然や農地に囲まれた住宅地です。昭和40年頃、地元の地権者が数本のモウソウチクを植え、それが戸島山周辺に広がり竹林が形成されてきました。近年、



こうした竹林は多くの場所で整備が行き届かず、荒れた状態になっていました。

平成20年頃、地権者の一人より竹林整備の協力依頼があり、「戸島山竹林を守る会」を立ち上げ、会員19名(地元住民4名、阿蘇野焼きボランティア13名、その他有志2名)で、この地区の荒廃竹林の整備を開始しました。整備で得た伐採竹やタケノコを地区内で利活用することを意識して活動しています。令和3年度からは、地元の幼稚園に呼びかけてタケノコ掘り体験をしてもらっているほか、収穫したタケノコを食材として子ども食堂に提供しています。「戸島山竹林を守る会」の協力組織「さわがにの会」と協力して、令和3年より伐った竹で作った竹灯籠(愛称「竹灯り」)や植木鉢(愛称「かぐや姫」)を戸島神社の参拝者や地域の公共施設、子ども食堂、小中学校、保育所・幼稚園などに配布しており、その数は3年間で600鉢になります。

「かぐや姫」を通じた被災地との繋がり

「かぐや姫」の配布活動を通じて培われた地域の人々との協力関係は、令和6年能登半島地震の被災地の幼稚園等の施設に「かぐや姫」を送付する支援活動にも結び付きました。震災後1年に合わせて、一輪挿し・花苗用の竹筒も送付し、先方の施設からはメッセージカードをいただくなど、活動が被災地との繋がりを生みしました。



伐った竹を利用して作った「かぐや姫」

継続的な活動に向けた取組

伐採竹やタケノコの利活用を通じた地域の様々な人々との交流を通して、この活動に対する地域の理解を醸成することができました。交付金終了後も継続的に活動が行えるよう、こうした交流の機会を通じて「戸島山の自然」に触れていただきたいと思います。自分たちの取組について知ってもらいながら、活動に対する募金活動なども行っています。



活動地で採れたタケノコを地域の子ども食堂に提供

活動の成果・効果(アウトプット・アウトカム)

➤ 鬱蒼とした竹林が地域の人々に愛される場所に

整備前の戸島神社は周辺一帯が鬱蒼とした竹林に覆われ、地域住民もあまり立ち入りにくい環境でした。整備後、山頂は明るく見通しがよくなり、参道沿いの竹林は草刈り等が行われ、参道から阿蘇外輪山も見えるようになりました。

た。地区内外から戸島山を訪れる人が増え、眺めの良いところで休憩されるなど、地域内外の人々に愛されています。担当エリアの2つの池も見違えるほどになり、今年はその一つ「ひらんこさん」は涸れることはありませんでした。



活動上の課題、その対応策等

伐採した竹は重量があり、林外に搬出することが困難なため、伐採竹の処理・処分が課題でした。太いものは植木鉢や竹灯籠として地域住民に提供するほか、散策路の整備に活用していますが、ほとんどの伐採竹は、近隣の消防所に焼却届を提出し、上部も含め、広いエリアの確保し、防火用水の準備(ジェットシューターなど)をした上で、戸島山の竹林内に複数の焼却場所を設けて焼却処分することになりました。



活動地域内の池「ひらんこさん」

今後の展開

地元の森林所有者、戸島神社の関係者、戸島山里山保全協議会などの協力を得て、地域のこども園との活動(10回/年)の継続に加えて、地元小学校の子どもたちを対象としたタケノコ掘りやかぐや姫の作成などのイベントを継続して行い、収穫した旬のタケノコを子ども食堂をはじめ地域内外に毎年提供してまいります。



十分な安全対策を講じて行う林内焼却処分

他の活動組織への一言アドバイス

当初、活動組織の構成メンバーの多くが地域外住民でした。活動を継続・発展させていくためには地元の理解と協力が不可欠なことから、活動区画ごとに地権者、近隣住民、戸島神社関係者など、地域住民を1名以上入れ、地元の問題として地域内の共有に努めたことで、地元の様々な支援や協力を得られるようになりました。



間引き作業後の竹林



下刈り作業後の作業地の一部

本交付金を利用してよかった！

本交付金があったことで、地域外住民でも戸島山の竹林整備に参加しやすくなりました。また、チェーンソー、刈払機などの機材を準備できたことで、交付金活動期間のみならず、交付金活動が終了する4年目以降の活動も効率的に進めることができるため、大変役立ちます。

若手シイタケ生産者による荒廃クヌギ林の再生

きくち むらかみかい
菊池村 上会

設立年：令和4年 構成員：7名
活動地域：熊本県菊池市
活動実績(令和5年度)：資源利用(2.8ha)
交付金323千円
連絡先：090-1976-1320
Email: mura8@ezweb.ne.jp



活動の概要

熊本県菊池市は、原木シイタケ栽培の一大生産地となっています。しかし近年、森林所有者の高齢化や林業従事者の減少等によってクヌギ林の整備が行われなくなり、クヌギ林の荒廃が目立つようになってきました。この状況を憂慮した地元の若手シイタケ生産者7名は、クヌギ林の再生を行おうと、令和4年に菊池村上会を立ち上げました。荒廃したクヌギ林を活動対象地として、下刈り、除伐、間伐等の整備を行い、伐採した大径のクヌギをシイタケのほだ木として活用しています。

大径のクヌギは原木シイタケ栽培に不向きとされていますが、菊池村上会は大径のクヌギを積極的に伐採して、原木シイタケ栽培のほだ木に活用しながらクヌギ林整備を行うことで、持続可能なクヌギ林の利用を目指すとともに、原木シイタケ生産を通じた地域の活性化にも寄与しています。初年度の令和4年度に、伐採した大径のクヌギ原木(約3,000本)に種ゴマを打ち込み、現在(令和6年秋から7年春にかけて)は、シイタケが発生し収穫する場所に移動している段階です。



クヌギ林整備前



伐採後



伐採した大径のクヌギ



荒廃したクヌギ林整備のためのほだ木生産

荒廃したクヌギ林2.8haで伐採した大径のクヌギ(直径20～30cm)は、玉切りをした後、そのままシイタケのほだ木(長さ1.15m×12玉程度)として活用しています。一般的なシイタケのほだ木は直径10～20cmで、それ以上太いほだ木は重量があり、シイタケが発生する

まで時間がかかることからシイタケ栽培には不向きとされてきましたが、大径木のほだ木は、一般的な太さのほだ木よりも長期間のシイタケ生産が可能です。また一般のシイタケよりも高い価格で販売される、状態の良いシイタケを生産することができます。



ほだ木に打たれたシイタケの種ゴマ



活動の成果・効果(アウトプット・アウトカム)



クヌギの萌芽再生
1年目(上)と2年目(右)

➤ 順調な萌芽更新

伐採を行った箇所のクヌギでは、萌芽が多く見られており、すくすくと成長しています。持続可能なクヌギ林に不可欠な萌芽更新が順調に進んでいます。

➤ クヌギ林整備により生物多様性が高い環境づくりに貢献

荒廃した大径のクヌギ林は、鬱蒼とした暗い林内で、下層植生も少なく、景観的にも悪い状態でしたが、整備によって林床に光がよく差し込むようになり、クヌギ林内の下層植生が豊かになり、生物多様性の向上にも寄与しています。



活動上の課題、その対応策等

- 菊池市ではシカ、イノシシの増加に伴う獣害対策が課題です。クヌギ林でもシカの食害等への対策が必要ですが、萌芽更新するため単木タイプの獣害防止ネットは設置が難しいため、クヌギ林を囲うように獣害防止ネットを設置する必要があります。
- 森林所有者の高齢化により所有者自身での山の管理が困難なこと、また後継者の不在により山の管理が行き届かないことが課題になっています。クヌギの萌芽更新を行っても、カズラなどのつる性植物に覆われ、成長そのものが阻害されてしまうことが懸念されるため、継続した管理が必要です。

今後の展開

- 原木シイタケは菌床シイタケに比べてゆっくりと時間をかけて生産するため、シイタケ本来の風味や香りが豊かになり市場価値も高くなります。伐採した大径クヌギ原木をシイタケ栽培に利用することで持続可能な森林利用を目指すとともに、シイタケ生産で地域の活性化に貢献していきます。
- シイタケの原木栽培の魅力や効果、地域資源としての活用意義などについて、様々な機会を通じて地域内外に積極的に発信していきます。

他の活動組織への 一言アドバイス

大径木となったクヌギでも、ほだ木として利用することは十分可能です。一般のシイタケよりも高い価格で販売される、状態の良いシイタケを生産することもでき、生産者にとっては収益が上がるという点で魅力があります。

本交付金を利用してよかった！

本交付金により、管理が行き届かなくなったクヌギ林を森林所有者に代わって整備するきっかけができた、地域のクヌギ林の再生が可能となりました。管理に苦慮している森林所有者からも喜ばれています。

希少植物の生育地再生にも貢献する竹林整備

な か さ と や ま ち り ん せ い び た い
那珂里山竹林整備隊

設立年：令和2年 構成員：10名
活動地域：宮崎県宮崎市
活動実績(令和5年度)：竹林整備(1.2ha)
資源利用(1.1ha)、交付金586千円
連絡先：090-3927-9217
Email：nakasatoyama9217@gmail.com



活動の概要

宮崎市佐土原町(さどわらちょう)にある活動対象地には、里山と水田、ため池が混在する農村環境が広がっています。近年、里山の管理が行き届かなくなってきたことにより、有害鳥獣の生息環境が広がり、竹林についても荒廃が進み、林内の日照低下や湿原の腐葉土の堆積が進行してきました。その結果、竹林を含め里山の多様な植物の生育環境も劣化してしまいました。

「那珂里山竹林整備隊」は、竹林環境の保全を目的とする団体の会員を中心に、元行政や造園会社職員、NPO関係者、農業者などのほか、宮崎植物研究会(県内の植物調査研究、観察会等の保護活動をしている)のメンバーなど10名で構成されています。竹林環境の保全を目的として、主に1.2haの竹林を対象に、倒竹・枯竹の除去、伐採竹の加工や、竹を使ったイベントの実施(年間5回程度)などの活動を行っています。



伐採竹の利活用例(茶事道具、竹舞台等)



積極的な竹の利活用

竹林整備だけでなく、伐採した竹の利活用にも積極的に取り組んでいます。例えば、マダケは皮が薄く、節の間が長いことから茶事道具の材料として、ハチクは細かな加工がしやすいことから竹灯籠づくりなど親子向けイベント用として、モウソウチクは皮が厚く、重量感があることから強度が求められるステージ土台や稲・千切り大根を干す際の骨組みなどで活用しています。

生物多様性保全の観点からの活動成果のモニタリング

宮崎植物研究会の会員でもある構成員が、林内の光環境の改善による、希少植物の生育環境回復への効果や希少植物の生育など、本活動の成果を生物多様性保全の観点からモニタリングしています。

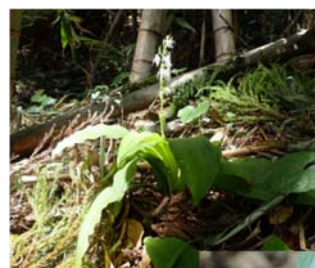
活動の成果・効果(アウトプット・アウトカム)

環境省のレッドリスト掲載種の生育

整備により竹林内の光環境が改善されたことで、環境省のレッドリストに掲載されている「ノヒメユリ」、「カンラン」(絶滅危惧IB類)や、「ナツエビネ」、「ナギラン」(絶滅危惧II類)が確認されるようになりました。

竹林環境の改善が地域の人々の喜びに

竹林内の作業路の整備も行ったことにより、竹林が地域の人たちの散策路として利用されるようになりました。また、整備作業により竹林内が明るくなったことでタケノコも得られるようになりました。竹林環境の改善は、レクリエーション価値の向上にも貢献し、地域の人々に喜ばれています。



回復が確認されたナツエビネ(左)とナギラン(下)





竹林整備作業により回復した
散策路



実績が評価され、竹の活用イベントの講師依頼も

竹の利活用の実績が評価され、宮崎市社会福祉協議会主催の親子向けの竹の活用教室に、材料提供と合わせて講師対応を定期的に依頼されるようになりました。社会福祉協議会との縁ができたおかげで、竹の活用先と同時に地域の人々に竹のおもしろさを紹介する機会が広がりました。

活動上の課題、その対応策等

- 絶滅危惧種が多く確認される貴重な環境であることから、竹林やその周辺の保全整備の必要性を広く伝えていきたいものの、希少種の盗掘が懸念されます。このため、生育場所が特定できない範囲での活動のPRとなるよう工夫しています。



今後の展開

- 昔ながらの土窯を使って竹炭・竹酢液を製造している有限会社「竹炭の里」(国富町)への伐採竹やメンマ用の幼竹の持ち込み販売を行い、活動の資金源とすることを考えています。
- タケノコの収穫体験、竹細工教室等を企画し、宮崎市内の小中学校等と連携することで、児童・生徒を対象とした森林環境教育を推進します。



他の活動組織への一言アドバイス

農地と里山が隣接しているため、里山だけでなく、農地周辺の整備を行うことで、農村環境を一体的に、環境に配慮した形で整備することができます。このため、本交付金と合わせて、隣接農地では農林水産省の多面的機能支払交付金を活用して整備しています。

本交付金を利用してよかった！

必要な道具や作業にかかる日当を用意できたことで、活動を地域の人に広げることができ、自分の山や地域の環境改善に取り組む意識づくりにもつながっています。

令和6年度 森林・山村多面的機能発揮対策交付金
活動事例集

発行 林野庁 令和7年3月

作成 公益財団法人 日本生態系協会